



▶ 年末年始のお寺の様子！

▶ 大掃除にお餅つき、忘年会！

12月28日(月)に、婦人会による恒例のお餅つきを行いました。成年会も大掃除と元朝祈禱のための三社殿の準備。終わって忘年会をしましたよ。

▶ 元朝祈禱が行われました

元旦0時から三社殿にて元朝祈禱を行いました。ここでご祈禱されたお札を年始参りで皆様にお配りしています。終わって、本堂でお勤めしました。

▶ お地藏様にお帽子とマフラーを

ちくちくお針子会の皆様がお地藏様に赤いお帽子とマフラーを作ってくれました！かわいいですね。寒い冬、お地藏様も嬉しそうです。

12月に入って恒例のニンジン漬け作りも。今年のお正月は雪はなくあたたかでしたが、寒の入りになり雪が積もり気温も下がりました。やっぱり冬は冬ですね。ピリッと冷える本堂では、坐禅に来られる方の姿もありましたよ。

▶ 春のお寺の行事予定

▶ 梅花流詠讃歌

毎週土曜日 午後1時半～3時半
新入講員さんと一緒に、ご詠歌を始めませんか？

▶ ちくちくお針子会

毎週火曜日 午前9時半～11時半
お地藏さん作りやサルボボづくりなど気ままにワイワイおしゃべりしながら。

▶ 坐禅

毎月第3日曜日 午後4時～5時
たまにはリンと背筋を伸ばしてすわりましょう。心が改まります。

▶ 写経

毎月第2日曜日 午後3時～4時
筆をもったり文字を書くことから離れた現代だからこそ。

▶ 朝ヨガ

毎月第3木曜日 朝5時45分～6時45分
2月～4月まではお休み。5月からの再開となります。参加される方はお電話を。

tel 0138-73-2032

※ 日程が変更することがあります。事前にお問い合わせください。
※ 気軽に手ぶらでお越しください。

▶ お寺の庭より - お寺の日々をつれづれに

お正月が明けきらないうちに、私の母が亡くなりました。元気にお正月を迎え、花の好きだった母は玄関に、リビングに、トイレに随所に花が活けてありました。冷蔵庫にはまだ、なますも残っていました。三が日が過ぎて少し体調を崩した母は最愛の息子(私の弟)と自分の寝室で会話中、突然のことでした。でも、おそらく誰もが願う最高の終わり方だったように思えます。認知症の父を残しての旅立ちでした。それからは、東京と函館の往復の生活です。時期だけに、葬祭場も大混雑で、遺体との面会も思うに任せず、東京というところは生まれ故郷ではありますが、改めて大変な所だなあと思いました。普段、訃報には接し慣れているはずですが、

さすがに母の死は悲しいものでした。そして、軽い認知症の合間に、妻の死を受け止めることが出来た父の悲しみはさらに深く、今後の父が心配です。一人になってしまったこと、何でも母がしてくれたことを今度は自分でしなければならないという思いからくる不安に、自分をコントロールできなくなってしまう父が、哀れでなりません。今は、一つ一つの行事を終わらせながら、私の弟夫婦と共に父の症状と向き合おうと思っています。皆様、今後どうぞよろしく願い申し上げます。



寺族 高橋 佳子

▶ 仏事 Q&A ー 仏教や仏事についてのご質問にお答えします。

Q 永代供養塔と共同墓の違いを教えてください。

大 きな違いは、家門先祖代々として、あるいは、個人として、本人没後も花が手向けられお経が読まれ、誰かに供養されるかどうかです。後継者がいなくても、その後の管理費なしに利用できる点はどちらも同じです。特に市営墓地などでの共同墓は、これまで「無縁墓」と呼ばれてきたものほとんど変わりません。

POINT

どちらも管理費は不要ですが、本人没後に供養があるかどうかの違いがあります。

POINT

あなたには「死にがい」はありますか？「死にがい」があってこそ「生きがい」です。

お 寺には、さまざまな方が集います。大切な方を亡くした方、裏の栗を拾いに来た方、仕事に行き詰まって悩んでいる方、放課後遊びに来る小学生たち…。「私が死んだら何にもない」ではなく、「私が死んだら、お寺に来た人たちを見守るんだ」。そういう「死にがい」が定まった時、生きているあなたの中に「生きがい」が輝いてきます。死んだらただの真っ暗闇じゃない。あなたはつながりの中に生かされている。そのことに気づいて生きる。お寺に墓地や納骨堂、永代供養塔があるのはそのためだと、広徳寺では考えています。

▶ ミニミニ法話 ー お檀家さんとのおしゃべりで気づいたこと

ひとは、ひとりで泣けるけど ひととは、ひとりで笑えない。

近 所のスーパーにあった広告です。このコピーを見て、あるお檀家さんが月参りで言っていたことを思い出しました。「悲しいとかね、ツライことは一人でもガマンできるんだ。でも、うれしいことや楽しいことを主人と共有できないのがさみしくて」。結婚して一緒になって半世紀以上。つらいことも楽しいことも一緒になって乗り越え共有してきた間柄だからこそ、パートナーと喜びあうことのできない虚しさは耐え難い。ともすれば、私たちは楽しいこと・うれしいことを自分だけのものと勘違いしてしまいがちです。しかし、実際には喜びの中にはあなたがいて、他者がいる。他とのつながりがあって、はじめて私たちは笑うことができる。逆に言えば、私たちは笑うたびに自分が他とつながっていることを実感できる。人間ばかりでなくていい。花に、空に、雪に、山に、心をひらいていく。すると、喜びはすでに満たされている。

▶ コトノハ ヒロバ ー 力をわけてもらえる言葉をあなたに

kotonoha hiroba

もう戻らない日々々に軽やかに決別する、そういう人の態度が私たちを再び前へと動かしてくれる。アイサー・ビナード氏の『もしも、詩があったら』(光文社新書)より。

あいさつ
ジェームズ・スカイラー

過ぎ去った日々は、二度と戻ってこない。けれど、もし本気でやろうと思いついにはできなかったことがあったとしても、それはそれで充分ではないか。本気だったということをおこせば。むかし、山小屋がぼつりと建っていた野原にヒナギクやクローバーやヤナギタンポポが何種類も咲きこぼれていた。ぼくはいつか一輪ずつつんできて、みんな集めて午後ひとときそれぞれの特徴を見つめて調べようと思っていた。その花びらがしぼまないうちに。過ぎ去った日々は二度と戻ってこない。ぼくは花いっぱいあの野原に、手を振る。

James Schuyler

▶ こんな映画を観ました！

▶ 『スターウォーズ』シリーズ

1978年に公開が始まったSF映画ですが、視覚効果やキャラクターデザイン、音楽もちろんのこと、エピソードに分かれた叙事詩的な物語構成が多くファンをひきつけます。特に、エピソード1,2,3では、少年アナキン・スカイウォーカーが、どうして悪の道に進み、悪の手先ダース・ヴェイダーとなってしまったかが描かれます。アナキンは最愛の人を失いたくない。「人を生き返らせる術」を望むアナキンの弱みを利用して、悪者は純粋なアナキンを悪の道に落とし入れます。ジェダイ・マスターであるヨーダは言います。「死は生命の自然な一部なのだ。執着は嫉妬を生む。そこに欲望の影が忍び寄るのだ」。端々に仏教的な香りのするこの映画ですが、最近『スターウォーズ 禅の教え』(柊野俊明・KADOKAWA)という本も出版されました。



『スターウォーズ 禅の教え』
柊野俊明 / 著
KADOKAWA 2015年
1,404円

▶ 編集後記

いつも通信を読んでくださりありがとうございます。お参りのたびに「見てるよ!」「参考になるね!」と応援していただくのがうれしくて、なんとか6年間続けることができました。内容もレイアウトも心機一転。作り手も自然体でいけるよう、高齢者でも読みやすいよう腐心しました。ご意見いただけると嬉しいです。これからもがんばります(副)。